

学生大使 実施報告書

氏名：上松優生

学部・学科(コース)・学年：地域教育文化学部・児童教育コース・4年

派遣先大学：新モンゴル学園

派遣期間：2/26～3/11

1 日本語教室での活動内容

私たちは日本の文化、若者、旅行、趣味等の内容を、新モンゴル学園の高校卒業生や高専別科生、工科大学生にプレゼンテーションで紹介する活動を行いました。私は「キャンパスライフ」と「初めての旧正月（ツァガンサル）」を担当しました。日本語クラスの学生だったため日本語と簡単な英語を交えながら発表をしました。「キャンパスライフ」に関しては、今年の春から日本の大学に留学する学生が多かったため日本でのキャンパスライフをイメージしてもらえるように、詳しく伝えるようにしました。「初めての旧正月（ツァガンサル）」に関しては、日本人の視点からびっくりしたことを日本の正月と比較しながら発表することで、異文化理解の交流ができたように思います。

新モンゴル学園の学生からもモンゴルの料理や遊牧民生活を紹介してもらいました。ゲルの作り方や重さを学んだり、季節によって主として食べる料理が異なったりと、これまで知らなかった多くのことを教えてもらいました。

中学生や高校生ともお話をする機会がありましたが、日本語のレベルの高さに驚きました。日本語を勉強していつか日本で働きたいという学生の話聞いて、日本人として嬉しくなりました。私も夢を大切にしながら、目標に向かって努力ができる人間になりたいと思いました。

2 日本語教室以外での交流活動

モンゴルの旧正月（ツァガンサル）ではホストファミリーと一緒に、ホストファミリーの家族、親戚の家に訪問しました。一日五軒訪問した日もありました。そもそもツァガンサルとは家族、親戚などが集まりごちそうを囲みながら、厳しい冬を乗り越えて春を迎える事に喜び、一年間の幸せを祈るという行事です。親戚に私が日本人であることを伝え、日本の好きなアニメを教えてください、「たくさんご飯を食べてね」と優しく話しかけてくれたりと、おもてなしをしてくれました。大変賑やかで幸せに満ちた空間が広がっており、モンゴルのあたたかさを感じることができました。

ツァガンサルが終わってからは、新モンゴル学園の学生とお昼ご飯を食べに行ったり、放課後に遊びに行ったりしました。お昼ご飯ではおすすめのモンゴルラーメンのお店に連れて行ってもらい楽しい時間を過ごしました。もちろんラーメンの味は美味しかったです。放課後ではビリヤード場に行ったり、ザイサン山からウランバートルのきれいな夜景を見たりしました。第二次世界大戦時に日本に勝利した記念として建てられた場所であることを教えられ、遊びの中に学びもありました。

3 参加目標への達成度と努力した内容

私の参加目標は、「現地の人と積極的にコミュニケーションをとること」でした。私はモンゴル語がー

【学生大使 実施報告書】

切わかりませんし、英語のスピーキングも中学生レベルです。それでも、気持ちでは負けまいと拙い英語と覚えたモンゴル語で多くの人と話すことができました。ホストファミリーがご飯を作ってくれたら「いただきます」、「ごちそうさまでした」はモンゴル語で言うようにしていました。新モンゴル学園の学生には「おはよう」、「さようなら」のあいさつは必ずするようにしていました。そのため当初の参加目標は達成できたかのように思います。

4 プログラムに参加した感想

モンゴルに着いてからすぐにツアガーンサルが始まりました。その期間は日本人の学生に合うことができず、ホストファミリーとその親戚、友達と一緒にいました。言葉が何もわからず、初めて食べる料理、初めて見る光景に戸惑い、当初は十分に楽しむことができませんでした。しかし時間を経て、家族、人のあたたかさを身に染みて感じて、当たり前のように家庭の輪の中に入れてもらえていることが大変嬉しくなりました。そこから私の気持ちは戸惑い、不安は消え去り、楽しさ、あたたかさだけが残りました。モンゴルでは「ありがとう」とあまり言わない文化があることを私のホストに教えてもらいました。これは決して、モンゴル人は礼儀がないということではありません。助けることは当たり前であり、助けられることも当たり前であるからです。そのような安心感のある人のつながりをうらやましく感じました。家族を大切にして、相手へのリスペクトを忘れない、素晴らしい考え方がモンゴルには根付いていることを実感しました。

他にも中学生のうちから人生設計がされている学生が多く驚きました。日本で働くために日本語を勉強しているという学生が多かったです。実際に彼らの日本語力の高さに驚きました。さらにはほとんどの学生が私よりも英語が堪能でした。小学生のうちからオールイングリッシュの授業を受けており、初めの数年は文法ではなくスピーキングだけの授業をしているようです。日本でも英語をうまく使いこなせるような授業づくりができればと強く思いました。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

本プログラムに参加して印象に残っていることは、あたたかくて強い人間関係と言語教育のレベルの高さです。人間関係でいえば人と人のつながりが強く、お互いを尊重する考えがあることが分かりました。性別や年齢関係なく、全体的に日本よりも密な関係性であったように思います。国民性や文化の違いはありますが、私もモンゴルの人たちのようなあたたかい関係づくりに努めていきたいと思いました。

言語習得に関しては、私よりも年齢が下であるのに、多くの学生が私よりも英語が話せていました。受けてきた教育の差はあるにしろ、明確な人生設計や個人の意識の差が大きな要因であると思いました。私も今後どのような人生を歩んでいきたいのかを考え、英語に関わらず、目標に向かって一つのことを頑張っていきたいと思います。

6 現地での活動写真

写真1

私のホスト、サイナーとその友達とツァーガンサル



写真2

放課後にビリヤード場で遊んだ様子



写真 3

お昼に食べたモンゴルラーメン



写真 4

サイナーとザイサンの山

